

## 京都サンガ F.C. 麻田将吾選手

### ◎プロフィール

年齢/24歳 身長/187cm 出身地/豊科  
背番号/3 利き足/左足 ポジション/D  
好きな選手/リオネル・メッシ (FW)

日本代表がドイツやスペインを破るなど盛り上がりを見せたサッカーW杯。Jリーグで活躍する選手に、安曇野市出身の若きアスリートがいます。

今月の安曇野きらりびとは新年特別企画。サッカーJ1、京都サンガF.C.で活躍している麻田将吾選手に、これまでの歩みや思い、目指す姿を聞きました。



© KYOTO.P.S.



© KYOTO.P.S.

ユースで1学年18人から20人くらい採って2チームに分けるんですが、京都サンガF.C.はユースで採る人数が1学年10人前後だったことが決め手でした。

この人数だと同じ学年で1チームしかできないので、他学年と一緒にプレーができる環境であること、そして2歳上に現在ドイツでプレーしている奥川雅也選手がいて、上手な人と一緒に練習することで自分も大きくなれるというメリットが大きかったと思います。そして、サッカーを軸に進路を考えた結果、中学卒業後、京都サンガF.C.ユースとして京都の高校に進学しました。

### ユースとプロの違いは？

リーグ戦をするという点ではユースもプロも同じですが、サッカーを

仕事とし、そこに責任が生じ、純粋に楽しいだけではやれなくなるというのがユースとの違いですね。また、プロでは求められることの次元が違います。例えば、「今のパスは左足じゃなくて右足に欲しかった」とか。お互い動きながら、相手の動きを予測し、ここに欲しいというところにピンポイントでパスを出すし、求める。ピッチ上の一人一人が監督みたいな感じですよ。

しかし、こういった注文がプレー中その場その時に求められるので、「今みたいな場合はこうした方がいいんだ」というような理解が早いんです。そして、ケース・バイ・ケースの判断が経験として積み重ねられていきます。ユース時代、プロの公式戦の翌日には練習試合に呼ばれ、直接トップチームの人たちとプレーしたのですが、今考えるとそれってものすごい財産だと思っています。

### 麻田選手の目標は？

まずは、チームの中心選手として京都サンガF.C.を勝たせられる存在になりたいと思っています。センターバックで出場

## 仲間と励んだ時間が Jリーグへの礎だった

### サッカーを始めたきっかけは？

物心ついたときにはサッカーボールがあつて、父のサッカーについて行くなど生活の中にサッカーがあり、家族のようにごく自然にサッカーに触れていました。本格的にサッカーを始めたのは小学1年生の時に、アルフト安曇野ジュニアに入団しました。

### つらいと思ったことは？

練習でつらいと思ったことはありませんが、中学1年生の時、身体的な変化が表れたときがつかつたです。オスグッドで膝が痛く、プレーがうまくいかない時期が続く、チームメイトも背が伸びてきたり足が速くなってきたり。周りが自分との距離を詰めてきていると感じて焦っていました。また、ピッチ上では上級生に体の強さなどで勝てなくて、上には上がいるなど感じました。

### プロを意識した時期はいつごろ？

本格的にサッカーを始めた段階から少なからずJリーグになりたいと思っていました。ただ、あまり強く意識はしていませんでした。サッカーが好きで、テレビでJリーグの試合を見たりすると「将来は画面の向こうでプレーしてんだな」と、どこか潜在的に思っていました。

プロを意識するきっかけとなったのは、高校の進路を決めるころ、Jリーグにユースがあることを知ったことでした。今所属している京都サンガF.C.をはじめ複数のチームからスカウトが来て、それらチームの練習に呼ばれ参加する中で、強くプロを意識するようになりました。

### 京都サンガF.C.とした決め手は？

スカウトに来たチームの中で京都サンガF.C.の練習が一番楽しかったんです。また、他のチームだと、

することが多いのですが、サッカーのオフエンスはセンターバックから始まることが多いんです。得点のチャンスを増やすため、安定してボールを前線につなげることができ、チャンスメーカーにからめるプレーヤーになりたいです。

そして、漠然とした目標でもあるんですが、日本代表も目標としています。今回W杯に出場した富安健洋選手は同じ年で、ポジションも同じ。また、田中碧選手や堂安律選手らともU-15時代にプレーしたことあるので、同じピッチに立ちたいと思っています。

### 最後に、子どもたちに一言

自分が頑張ればプロになれます。僕は、アルフト安曇野ジュニアで、県内外から選抜されてきた子どもたちではなく地元の子どもたち同士築いたチームで、同じ目標をもって努力し、互いに切磋琢磨して頑張ってきました。そもそもサッカーが好きで、休み時間や放課後は友だちとずっとサッカーをしていました。朝6時半には家を出て、走って登校してアップを完了させ、カバンを置いたらすぐサッカー。そういう仲間や生活がなかったら、今プロになれていませんでした。

### MEMO

#### ◎2022シーズンの戦歴

- ・出場試合数 32/34 うち31試合先発
- ・タックル成功率 68.5%
- ・空中戦勝率 62.0%

#### ◎代表歴

- ・2013年～2015年 U-17日本代表
- AFC U-16選手権出場 (2014年)
- ・2017年 U-20日本代表
- トゥーロン国際大会出場 (2017年)

